

ハンドボール



(財) 日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 46

No. (16名用)

スローオフチーム 広島県

A	広島県	香川県	B
---	-----	-----	---

スコア
27 - 20
7m TC

監督サイン
吉田龍成 (A) 高野好弘 (B)

大会名	第47回国民体育大会 香川県清流国体		
年次	平成24年	月	10月
日	7日	(日)	場所
種別	成年	男・女	男
回数	第 1 回戦	準決勝	決勝
リーグ	リーグ		

A	広島県		警告	退場	失追	チームタイムアウト	
	前半	後半				前半	後半
役員A	吉田 龍成					4	2
役員B	奥 成玉						
役員C	佐野 綾子					得点	
役員D						前半	後半
1	壺面 紗子					-	-
2	増田 寛即					T	T
3	高橋 佑亮						
4	河野 早紀						
5	大前 真子						
6	塩田 真奈美						
7	新城 胡余					F	F
8	塩田 綾香						
9	早川 志歩						
10	高山 智恵					F	F
11	高野 千尋						
12	田口 舞						
合計						3	1
合計						0	17
合計						27	21

B	香川県		警告	退場	失追	チームタイムアウト	
	前半	後半				前半	後半
役員A	高野 好弘					2	2
役員B	大野 勝吾						
役員C	藤本 省三					得点	
役員D	小林 直美					前半	後半
1	藤山 美沙						
2	岡田 好美					F	3
3	塩田 沙代					F	3
4	沢井 理絵					T	2
5	坂部 智子						
6	中久保 裕美					T	2
7	筑後 春香					F	4
8	鶴海 木幸					F	3
9	藤井 優						3
10	土井 菜那						
11	太田 花咲						
12	角洲 友紀						
合計						2	4
合計						12	8
合計						12	20

タイムキーパー
島田 龍成 (A) 高野 好弘 (B)

マッパサイン
河合 威雄 (A) 高野 好弘 (B)

A	前半		B	後半	
	得点	時間		得点	時間
3	1	3:50			
7	2	5:17			
		6:58	1	3	
2 W	7	7:45			
2 S	8	7:45	2	0	
	9	7:45	3	4	
3 W	11	15:15	4	0	
	12	10:10	W	10	
	12	15:05	S	8	
7 0 3	12	15:05			
7 0 4	14	15:05			
	15	10:10	W	9	
	16	22:06		8	
3	5	16:32			
2	6	17:40			
	19	17:40	7	7	
	21	00:08	8	8	
	22	22:09	0	2	
	22	00:10		3	
10	7	25:02			
	26	10:11		4	
	27	02:12		3	
8	8	27:40			
	28	20:10			
10	9	28:59			
10	10	29:41			
10		12			
27		20			

特記事項

① (主催者用)

日本ハンドボール協会版-不許複製

ハンドボール 結果報告 No.45

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月7日(日)	試合記号	En	回戦	準々決勝
種別	成年女子	会場	下呂市交流会館		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
広島県			香川県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
27	10	前半	12	20	
	17	後半	8		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名 中村 敏郎

前日の三重県との接戦を制した香川県と東京都を大差で下した広島県の一戦は広島県のスローオフで始まった。両チームとも落ち着いたディフェンスで静かなスタートとなったが、先手をとったのは広島県だった。3分50秒に広島県3番高橋が見事なステップシュートを決めると続いて5分に広島県7番新城がポストシュートを決める。2点のリードを許した香川県は、6分に3番塩田が速攻で初得点をあげ、2番岡田がペナルティスローを決め、2対2に持ち込む。広島が1名退場になると、香川県4番沢井、2番岡田、8番鶴海と3連続得点をあげた。しかし、逆に香川県に退場者が出ると流れが変わった。広島県7番新城が2本ペナルティスローを決め、3番高橋の速攻、2番増田のロングで6対6の同点に追いついた。その後、香川県1番キーパー盛山がシュートを止めれば、広島県1番キーパー堂面もスーパーセーブで返し、1点を争うゲームが続く。均衡を破ったのは香川県だった。19分40秒に3番塩田のパスを7番筑後がスカイプレーで決め、1番キーパー盛山が8分間広島県を0点に抑える間に4連続得点をする。その後、広島県10番高山が3得点と活躍したが、前半を12対10の香川県リードで終了した。

後半に入ると、前半とは大きく試合の流れが変わった。香川県3番塩田、4番沢井のシュートを広島県1番キーパー堂面が次々に止めるスーパーセーブを見せる間に、7番新城の活躍で一気に逆転した。香川県も9分5秒に7番筑後のステップ、9分15秒に6番中久保が速攻で決めるなど食い下がるが、再び退場者を出し傾いた流れを戻せない。広島県は、その後も10分40秒に2番増田のカットイン、11分50秒には、3番高橋のノールックパスを7番新城が決めるなど、着実に加点し15分には22対15と香川県を7点リードした。

広島県は、1番キーパー堂面の活躍もさることながら4番河田の体を張ったディフェンスなど後半に入ってむしろディフェンスのスピードが上がった。逆に香川県は疲れからか、パスにも精度が無くなり、ゲームを作ることができなかった。後半は、17対8と大きく差をつけた広島県が勝利を収めた。